

令和5年(2023年)5月29日(月曜日)



しゃぎりの奉納が行われた大祭
＝三島市南本町の腰切不動尊

大祭でしゃぎり奉納

1633年に見つかった上半身だけの石仏をまつる「腰切不動尊」(三島市南本町)で28日、大祭が行われた。田町砂切保存会のしゃぎり奉納や不動尊の由来を説明する紙芝居が行われ、地域住民らでにぎわった。

不動尊は同市を流れる御殿川の水車場の川底から見つかった。発見時に腰から上しかなかったため、安産や下半身の病に御利益があるとされ、近隣住民の信仰を集めた。祭りは戦後間もない時期に一時途絶えたが、地域住民やNPO法人グラウンドワーク三島、日大三島国際関係学部の国際協力部が1999年に復活させた。年2回の例祭とともに、地域の祭りとして定着している。

この日はお堂の清掃や読経なども行われ、地域住民が水の都の文化や歴史への理解を深めた。

上半身の石仏「腰切不動尊」三島